

導入が進む高校での自転車運転免許制度

自転車事故を未然に防ぐため、各高校では警察や有識者による交通安全講話や自転車安全講習会、ホームルームでの話し合いなどを展開しています。その一方で、単に講話を聞かせたり、講習会に参加させたりするだけでは、生徒の交通安全に対する意識は変わらないという意見も聞かれます。そのため、生徒に交通安全意識を身に付けさせるため、独自の自転車運転免許制度を導入する高校が全国的に増えてきました。そこで、昨年から同制度の導入を開始した岐阜県立加茂高校を取材してきました。自転車運転免許を取得するためのカリキュラムはどのようになっているのか、そして自転車運転免許を取得した生徒の交通安全に対する意識はどのように変化したのかを伺いました。

高い水準にある 高校生の自転車事故件数

平成23年の自転車乗車中の死傷者の年齢構成を見ると、19歳以下の若年層の比率が32・5%となっており、その中で、高校生を含む16～19歳の比率は14・2%（2万414人）を占めています。全国の高校では、このような交通事故を少しでも減らすため講習会や安全運転教室を開催するなど、さまざまな交通安全教育に取り組んでいます。最近では生徒に交通安全意識をより強く持たせようと、自転車運転免許制度を導入する高校が増えてきています。

新たな交通安全教育として 自転車運転免許制度に注目

● 重大な自転車事故を未然に防ぐ対応策

自転車運転免許制度を全国の高校で最初に導入したのは、福岡県立柏陵高校で2006年10月のことでした。導入以前は年間10～20件の人身事故が発生していましたが、自転車運転免許制度導入後の2007年には無事故となり、その後は多い年でも年間1～2件のみとなっています。さらに、学校周辺の住民からの苦情もほとんどなくなるなど、自転車運転免許制度導入の効果が表れています。

表1 自転車運転免許制度を導入した主な高校

導入年月	学校名	試験の対象	実施月	交付条件
2006年10月	福岡県立柏陵高校 (福岡市南区)	1年生	毎年4月	実技試験 学科試験 任意保険への加入 自転車点検の実施
2010年11月	愛知県立春日井工業高校 (愛知県春日井市)	1年生	毎年5月	実技試験 学科試験
2011年10月	岐阜県立加茂高校 (岐阜県美濃加茂市)	1年生	毎年5月	実技試験 学科試験 任意保険への加入
2012年1月	兵庫県立有馬高校 (兵庫県三田市)	1年生	毎年4月	実技試験 学科試験
2012年4月	浦和学院高校 (さいたま市緑区)	1年生 筆記試験は 全学年	毎年4月	実技試験 筆記試験
2012年5月	岐阜県立八百津高校 (岐阜県加茂郡八百津町)	1年生	毎年5月	実技試験 学科試験
2012年5月	岐阜県立加茂農林高校 (岐阜県美濃加茂市)	1年生	毎年5月	実技試験 学科試験
2012年5月	慶成高校 (北九州市小倉北区)	全学年 (毎年更新)	毎年4月	交通安全講習会の受講 自転車の防犯登録 自転車に鍵を2個付ける 自転車の安全点検 任意保険への加入
2012年7月	兵庫県立東播工業高校 (兵庫県加古川市)	1年生	4月または 5月に実施 予定	実技試験 学科試験

出典：電話での聞き取り調査により、編集部にて作成

その後、この実績を知った各地の高校でも導入が具体的に検討されるようになりまし
た。2010年には愛知県立春日井工業高
校、2011年には岐阜県立加茂高校、そして
2012年には、わかっているだけで一挙に6
校もの高校が、自転車運転免許制度（一部呼び
名が違うものも含む）の導入を開始しました（表
1）。

● 岐阜県初の自転車運転免許制度導入に向けて
その中から今回は、既に3つの公立高校で自
転車免許制度が導入されている岐阜県におい

導入が進む高校での自転車運転免許制度



写真① 生徒の約95%が自転車通学をしている岐阜県立加茂高校



写真② 岐阜県立加茂高校で生徒指導を担当している河田雅幸先生



写真③ 生徒の事故が発生し、自転車運転免許制度導入のきっかけとなった遮断機のない踏切

「クルマやバイクと
 視察してもっとも印象に残ったのが、生徒に自転車運転免許証を持たせるといふことだったそうです。」

こう語る河田先生が、春日井工業高校を視察してもっとも印象に残ったのが、生徒に自転車運転免許証を持たせるといふことだったそうです。

て、初めて同制度を導入し、近隣の高校へ導入が波及するきっかけとなった岐阜県立加茂高校を取材してきました。加茂高校は、岐阜県の南部に位置する人口約5万5000人の美濃加茂市にあります。同市の公共交通機関である鉄道やバスの路線数や運行本数は限られているため、加茂高校の生徒のほとんど（約95%）が自転車で通学しています（写真①）。

この加茂高校で、自転車運転免許制度導入の責任者として、各方面との協議や調整を行ってきた生徒指導部長の河田雅幸先生に、まず導入までの経緯をお伺いしました（写真②）。

「当校では、生徒の自転車とクルマの接触事故が年間十数件発生していたため、事故を減らすためにはどのような対策が有効か試行錯誤していました。そのような状況下、2010年に

遮断機も警報器もない踏切で、自転車に乗った生徒が列車と接触する事故を起こしてしまっただけです（写真③）。幸いにも、軽いケガだけで済みましたが、一歩間違えれば命にかかわる大きな事故だったのです。この事故がきっかけで、従来の交通安全教育には限界を感じて、どうするべきかということをより真剣に考えるようになりました」

従来、加茂高校では年に1回ホームルームの時間を使い、1時間ほど交通安全教室を開催していました。しかし、交通安全教室だけでは事故が後を絶たないため、新たな対応策を考える必要があったのです。ちょうどその時期に、隣の愛知県立春日井工業高校が2010年11月から自転車運転免許制度を導入し、生徒の事故抑制に効果をあげていることが報道されました。

●警察と自動車教習所の協力を得て実現

加茂高校でも自転車運転免許制度を導入したいと考えた河田先生は、校長先生の許可を得て、春日井工業高校へ視察に行くことにしました。その視察前に、自転車運転免許制度を導入するとすれば、交通法規や運転免許のプロである警察と自動車教習所の協力が必要と考え、地元加茂警察署と加茂自動車学校に自転車運転免許制度の話をしたそうです。

「実は、一人で春日井工業高校へ視察に行くつもりだったのですが、視察に行く前に加茂警察署の交通課課長と加茂自動車学校の担当者に協力を要請すると、即座に了承して下さいました。視察にも同行して頂き、警察や自動車教習所も導入に当たった役割をはっきりと理解して頂けました。両者の積極的な協力により、2012年度からの導入予定を2011年10月に前倒しすることができたのです」



写真④ 学科試験問題の例。同校の通学路に合わせて作成され、標識の問題や実際の通学風景の写真が使用した問題などが出題されている



写真⑤ 生徒たちは、障害物を避ける際、スピードを出しすぎると曲がれないことをスラロームの試験で体感



写真⑥ 一本橋では、低速でのバランス感覚を養う

1日増やすことで問題をクリアしました。

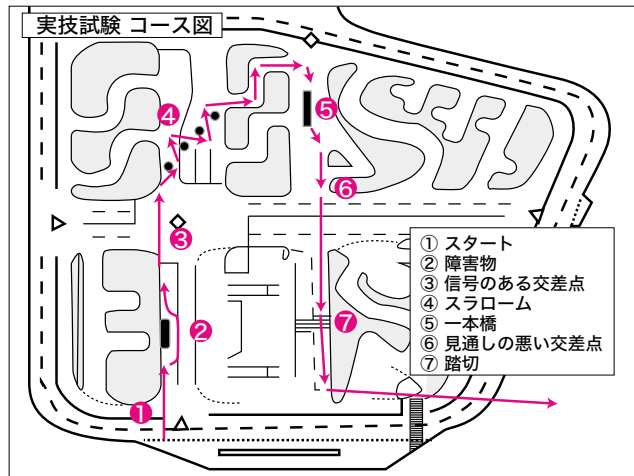
免許取得が目的ではなく 交通ルールを学ぶきっかけに

●1年生(当時)を対象に第1回試験を実施

岐阜県初となる加茂高校の第1回自転車運転免許試験は、2011年10月31日に加茂自動車学校で実施されました。参加者は当時1年生(現2年生)の全生徒309名で、2年生と3年生は対象となりませんでした。その理由を河田先生にお聞きしました。

「1年生のみを対象にしたのは、交通事故を起こす確率ももっとも高いからです。新しい環境で通学路にも慣れておらず、自転車通学は初めてという生徒が多いためなのでしょう。そこ

図1 加茂高校の自転車運転免許の実技試験のコース



で、まずは1年生の事故を減らすことを目標にしました」

試験当日は、生徒を2つのグループに分け、学科と実技の試験を午前と午後で交代して実施。学科は1時間くらいの講習の後に試験を行いました。正誤形式で20問出題され、100点満点で80点以上が合格となります。試験問題は、実際の通学路の写真を使用しながら、自転車の並走、標識の意味など交通法規を問うものになっています(写真④)。

一方、実技は説明をしてすぐに試験を実施。教習所のコースの指定された7カ所のチェックポイントで、教習所の教官がチェックを行ない、

同様に免許証を持たせるといことは、すぐインパクトがあることだと感じました。免許証を所有するということは、講習や実技をしつかりと学んで試験に合格した証明であり、法令遵守意識を持たせることができます。子どもの頃、親に自転車の乗り方を教えてもらっても、交通法規をちゃんと教わる機会はありません

なお、自転車運転免許制度の導入準備が進む中で、調整に時間を要したのは意外にも学校だったそうです。学校の年間カリキュラムはすでに決まっており、年度の途中で自転車運転免許を取得する時間をどのように設定するのが問題となりました。最終的には、各教諭と校長先生の協力もあり、対象となる生徒の登校日数を



写真⑦ 自転車運転免許試験の実施に際し、挨拶をする加茂自動車学校の赤塚知代典さん（営業課課長）

身分証明書（自転車運転免許証） No. XXXXXXXXXX

下記の者は、本校の生徒であることを証明する。

氏名 XXXXXXXXXX

生年月日 平成XX年XX月XX日

所在地 〒505-0027
岐阜県美濃加茂市本郷町2-6-78
TEL 0574 (25) 2133

有効期限 2015年3月末日まで

岐阜県立加茂高等学校長




留意事項

1. 自転車通学をする者は、常時本証を携帯すること。
2. 道路交通法を遵守し、安全運転を心掛けること。
3. 整備不良のないように各自で点検しておくこと。
4. 運転マナーの悪質な者は、本証を返納させ自転車通学の許可を取り消すので注意すること。
5. 事故に遭った場合は、すぐに警察や学校等に連絡すること。

講習場所：加茂自動車学校 講習指導：加茂警察署交通課
岐阜県立加茂高等学校 TEL (0574) 25-2133

写真⑧ 加茂高校の自転車運転免許証。今年度の新1年生からは、身分証明書(学生証)も兼ねたデザインに変更されている

取材時に通学風景を見ますと、

「苦情がほとんどなく、今年度は一切なく、それなりの効果は出ていると思っています」と言います。

一方、年間数十件あった地元の方からの苦情はほとんどなくなりました。これまでは、交差点における自転車の飛び出し、逆走、道路の斜め横断、歩道上の並走などの苦情がありました。

学科同様に100点満点で80点以上が合格となります。7カ所のチェックポイントは、発進、障害物（駐車車両）の追い越し、信号のある交差点、スラローム（写真⑤）、一本橋（写真⑥）、見通しの悪い交差点、踏切となっています（図1）。

このように、学科、実技ともに加茂高校の生徒が通学で利用する道路で問題となっている場所の状況を反映させた問題を出題。これら試験問題は、加茂自動車学校の赤塚知代典さん（写真⑦）が河田先生と協議して作成し、警察が試験内容に間違いがないかチェックしています。

●試験は緊張の連続も受験者全員が合格
試験の結果、受験者数309名中304名が合格となり、5人が不合格となったそうです。

しかし、不合格者にはすぐに追試を実施して、最終的には309名全員が合格となっていました。これは、免許の取得が主ではなく、交通规则をしっかり学んでもらうことが目的となっているからです。

そして2回目の試験は、新1年生を対象に、今年5月に実施されました。このときは、初めから年間カリキュラムに組み込まれていたため、授業時間の調整などは必要ありませんでした。受験者数は360名で、このときも最初の試験で合格率100%とはならず、学科試験で2名の追試を実施することになったそうです。

ただし、実技で追試になった生徒はわずか、学科追試の結果、最終的に全員が自転車運転免許証を取得しました。この免許証は1年前よりも

進化し、学生証と一体になっており、自転車通学許可には自転車保険への加入が条件となりました（写真⑧）。自転車運転免許制度を導入した後も、このように状況に応じて講習や試験内容、条件などを進化させていき、今後は毎年5月に学校行事として実施していく予定となっています。

●地元住民からの苦情が大幅に減少
では、自転車運転免許制度導入により事故の発生件数は減少したのでしょうか。これについて河田先生は、「事故の件数は、残念ながら減少していません。ただし、今年度は5月に運転免許試験を実施したことで、これまで多かった自転車通学に慣れない1年による事故は減りました。むしろ、2年生と免許のない3年生の事故の方が目立っています。

一方、年間数十件あった地元の方からの苦情はほとんどなくなりました。これまでは、交差点における自転車の飛び出し、逆走、道路の斜め横断、歩道上の並走などの苦情がありました。今年度は一切なく、それなりの効果は出ていると思っています」と言います。

免許を所有したことで自転車運転時の法令遵守意識が向上



写真⑨ 加茂高校の通学風景。自転車運転免許を取得したことで、生徒の自転車利用時の交通ルールの遵守意識が高まっているという

きちんと一列に並んで走行していました(写真⑨)。交通ルールを守ろうという意識が根付いているように感じました。実際に毎朝、通学路で自転車通学の生徒に指導を行っている水谷賢司先生は、次のように認識の変化を語ってくれました。

「私は毎朝、当校生徒の約8割が自転車で通る学校裏の踏切に立っています。その時、希にイヤホンをしている生徒がいるのですが、旗を持って立っている私に気がつくとすぐに外します。その行為が、本人の中でいけないことだという認識が強いからだと思います。それだけ生徒の自転車利用時の交通ルール遵守の意識が高まっています。むしろクルマのドライバーの方

が自転車のことを理解していないことが多いようで、自転車はすぐに止まれるものと思いで、事故につながるケースはまだあります」

●自転車運転時の法令遵守意識向上に寄与

学校が生徒に行ったアンケートによれば、自転車運転免許を取得するための講習に参加して交通法規を学ぶことができた、安全確認の大切さを理解することができたという意見がほぼ100%になっています。従来のような交通安全教室や講習会も、生徒の法令遵守意識向上には役立っていたと思いますが、やはり交通法規を学んだ証として免許証が発行されることは大きな効果を発揮しているようです。今回、自転車運転免許制度導入に協力した加茂警察署署長

通課の谷口淳課長は、次のように語ります。「管内で交通ルール違反をした生徒に署員が指導をしたとき、免許証を持っているだろう」というと、恥ずかしそうにする生徒がいるという話を聞いています。自転車のルールや危険を知識として持っているだけで、事故に至る危険性はまったく違ってきます。また、自転車運転免許制度が注目を浴びたことにより、地元の人たちに見られているという意識が芽生え、自然と交通ルールの遵守意識も向上していています」

全国へと広がりを見せる

自転車運転免許制度導入校

●交通安全教育の新スタイルへ発展

加茂高校に啓発され、今年度から美濃加茂市

と加茂郡にある全ての公立高校(加茂農林高校と八百津高校)が自転車運転免許制度の導入を開始。この2校に協力しているのは、加茂高校の時と同様に加茂自動車学校と加茂警察署で、学校の地理的特徴や通学路に応じて学習内容や試験内容が異なっています。例えば、八百津高校の場合は学校前に坂道があるため、実技試験に坂道運転を加えています。また、自転車の二人乗りをするケースが多かったため、その危険性について講義を行ったりしています。

このように、自転車免許制度導入に当たっては、地域の条件にあった内容で交通法規やルールを学ぶ場を生徒に提供することが大切です。同時に、交通安全を指導する先生を対象にした学習の場を提供し、先生たちの交通安全指導の質をより高めることで、生徒への指導をさらに充実したものにしていくことも重要ではないでしょうか。

既に自転車運転免許制度を導入している高校では、全国から同制度についての問い合わせがあり、実際に視察に訪れる先生も多いと言います。全国の高校数からみれば、まだ自転車運転免許制度を導入している学校はごくわずかですが、これは法令遵守意識を高めるために有効な方法の一つであり、より多くの学校に同制度が広がり、生徒の自転車事故が減っていくことが期待されます。

高校生座談会

免許取得で安全に対する意識が向上

自転車運転免許証を保有する1、2年生、保有していない3年生と両方の生徒がいる加茂高校。そこで免許の有無による交通安全への意識の違い、免許取得で意識の変化があったのかを聞くために、生徒会執行部の代表7名に集まって頂き、座談会を開催しました。

— 3年生にお聞きしますが、1年生、2年生と比較して交通安全に対する意識の違いはあると思いますか？

藤井 免許証は持っていませんが、免許証を所有している2年生に負けられないように、意識を高く持って自転車に乗りたいと思うようになりました。

瀬川 現在の1年生と2年生が免許証を所有していることにより、僕らもいい影響を受けて、自転車に乗るときは交通ルールを守るようになっています。

二村 私たちが2年生のとき1年生が免許を取得し、加茂高全体で意識の高まりがあったと思います。生徒全員で、事故を減らしていけたらいいなと考えています。

— 2年生は、自転車運転免許試験を受けてどう思いましたか。

中島 私は自転車通学をしていないのですが、免許を取得したことで自転車に乗っている人の視点に立ち、歩行者として自転車がいたときの交通ルールを考えるようになりました。

前島 自転車に乗っていて危ないと思った経験

がなかったもので、わざわざ免許を取らなくても思っていました。でも、免許取得時の講習で交通ルールを改めて教えてもらって、全然知らないことが結構ありました。実際に運転するとき役立つことが多く、普段から自然と気を付けるようになりました。

— 1年生は、免許を取得して意識の変化はありましたか。

早川 僕は中学の時も自転車通学をしていましたが、地元は歩行者、クルマともに少ないので危ないと思ったことはありませんでした。しかし、高校周辺は歩行者、クルマともに多いので、自転車を運転するときに気をつけなくてはいいないことが色々あります。そういうことを、自転車運転免許を取得するときに勉強できたので、とても役立っています。

長谷川 中学へは徒歩で通学していたので、下校後や休日などに自転車に乗っていました。家の近所は急な坂が多く、ブレーキのかけかたがよく分かっていたので、壁にぶつかったこともありません(笑)。でも、免許を取得してブレーキのかけ方もすっかりと理解でき、カ

ー プミラーもきちんと見るようになりました。免許取得前後で変わった点や気がついたことがありますか。

長谷川 他校の人たちが、雨の日に傘を差して自転車に乗っている姿を見ると危ないと感じるようになりました。とくに、風の強い雨の日は傘が飛ばされることもあり、周りの人にも迷惑をかけてしまうし危険ですね。私は、雨の日には必ずレインコートを着て自転車に乗っています。

早川 講習を受ける前、ある踏切で自分の前にいた自転車の人が、遮断機が下り始めているのに横断しているのを見て、とても危険だなと思うことがありました。それで、講習で踏切での一時停止の大切さを改めて知り、自分は必ず一時停止するようにしています。

瀬川 僕は免許がありませんが、交通ルールを守らないと、自分の身が危険になるだけでなく、クルマの運転手にも迷惑を掛けてしまうということを考えて、自転車に乗っています。



写真⑩ 座談会に参加してくれた3年生。左から二村稚菜美さん、藤井伸司さん、瀬川直寛さん



写真⑪ 自転車運転免許証を取得した1・2年生。左から1年生の長谷川佳帆さんと早川元基さん、2年生の中島慧さんと前島瑞穂さん